

刊夕日二十

● 満洲の形勢漸く不穩

度あるに憤慨し兩派の間自然隙を
 生じ各處に暗闘を演じつゝある形跡
 もあり斯くて滿洲も今や頗る混沌
 十名を招き書奏を催せり

● 鮮銀店長會議
十五日より 鮮銀支店長、出張所長、
松田銀行部支配人の會議を開く。

にて分れルゲヴィツチ氏はソーボ
フ氏を随へハ爾賓直行歸途に就き
ーシトル氏はウエンストツク氏を

レを剝り堀を倒す等其損害甚だしき
年稀なる強風と云ふべし八日朝に
り静穏に復す▲沙里院消防組は五

近^{いた}に
至^{いた}る
五月
山東新將軍は十日午前十
獨立^{どくりつ}を宣言^{せんげん}したり（上海電報）

時
朝鮮離宮候補地は未だ決定せざ

れ
に

第三十六回

A black and white illustration of a woman in a kimono looking out a window at a small table with a bowl. The woman is seated on the right, her back to the viewer, looking out a window. She wears a kimono with a dark, patterned design. On the left, a small table holds a bowl. The scene is set indoors, with a window looking out onto a dark area. The style is simple and illustrative, typical of early 20th-century Japanese book illustrations.

鳳門人衆　今出て往つた先生何方へ往かれたか跡を見届けて来て下さるやう　「心得ました」と表へ飛出した門人、間もなく引返して　「先生何處へ往つたか」と妻が見まさんが看板が二枚表にございます、先日持つて往つたのが　「鳳チーム二枚持つて来たか……」　「一度に三枚

電話一〇三三番

かつた天下天下唯我獨尊など、書いたから風かきしたんだ、彼は異國天狗の化身、俺の讀破の鼻を挫かれたものを見る、大空にた天下は廣いから決して油断は入らぬと、茲に於て胆寒、悉く改心して鎗工風に工風を重ねて發明した鐵寶藏院流、天下に名高くなつて諸國の武士衆つて雙龍坊の門に入つて修業するこの

三番勝負を済ませましたれが雙龍坊、業流宮本の技倆を感じ暫らく道に留めて待遇して居りました武藏、槍柄をやるが深くはないから雙龍坊の道場、に足を留めて一月ばかり修業したし、工合が分りましたから暇ひをして奈良を立つて京都へ起きました、京都は王城の地、桓武天皇めて都を遷し給ひしより一千百餘

[illegible]

吉暗劍乾▲七赤 確實の 日轉居入學金殿名

●六白●氣崩れのする 事有日注意新事見合市

今年一年中の大切な時季

飛花流鳥、若に別れを告げ、木より
 の若芽が萌出する今日此頃は、平
 生潜伏して居た梅毒も、外へ吹出
 す時であるから、或は膿や念身へ
 發疹がしたり、楊梅瘡にならる、
 つたり、思ひがけもなし所に
 腫物が出来たり、横痃が節が緩
 出たり、眼が赤くなつたり、患
 かすんだり、聲が啞れたるのである。

全なる内服薬を用ひ、自宅で秘

一、梅毒の傳染した初めに、本療法を用ふれば横痃が出るまでに致らず局部以外には病菌の傳播せぬ内に、容易に減退して、安全に毒素を体外に驅逐す

一、第二期第三期の長年の骨がらみの梅毒も、化學作用にて病毒を悉く排泄し、初生の時と同じ様に無垢の身体となる



されは、一般梅毒患者は、速かに本療法に依り、指折り數へて治癒の慶を奏せよ、梅毒に對する現代最善の療法である

男は、結婚前に梅

△傳染し、家庭は梅毒の巢となる
△夫婦は、梅毒を一眼も早く根治せざれば、生るゝ子は、頑固な
遺傳梅毒にて一生を恨むに至る
△一度でも梅毒に罹つた人は、治つた後でも、病原菌が他日の罹
の種に變り居る故に梅毒素と自體は離にもある」などいふ勸戒せず、
全治して安心せよ
今や晩春初夏の梅毒は、漸く外へ浮出し、恰も要薬を出で、野外
に出張する敵兵の如く、聖薬の絶対機微にて、藥効を平時に幾回
して顯れる、故に好時機を失せず、速かに本療法を實驗して身
家の安寧幸福を得られよ詳細は説明書に譲る

▲淋病患者を告ぐ淋病

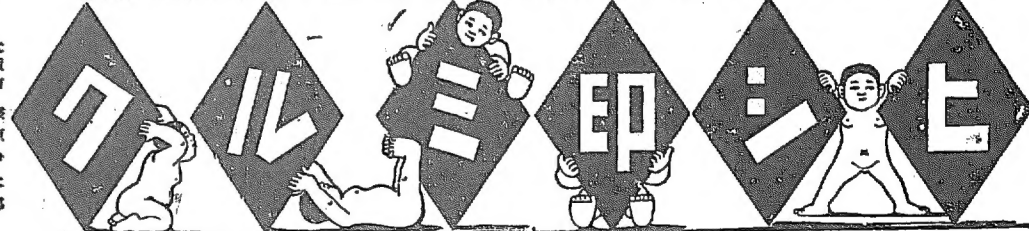
の自療法を詳載す。當所は患者諸氏の秘術を絶対に保守す。

東京市本所向
島小梅町八〇

東京薬化学研究所

電話本局七一〇番

品製勵獎の府政が我。りあ標商の印シヒにはに乳煉る得來出の證保、いよに常非てくし新に常は品製



必ず……
一生涯御常用になる

美味は
養蜂印香竄葡萄酒



常用者の忘るべからざる**欣快**は
 毎朝の一杯は……精神を爽に元氣を増す
 毎晩の一杯は……疲勞を癒め睡眠を助く

斯くして**ますます健康の人**となる！！

東京日本橋本 近藤

實業用旗票自轉車
又井一卜木一號



又井一トホ一ム號は
 價格の低廉に於て絶對也
 又井一トホ一ム號は
 機械の堅牢に於て絶對也
 又井一トホ一ム號は
 廻轉の爽快に於て絶對也
 又井一トホ一ム號は
 装置の巧緻に於て絶對也

以上の絶對的理由を以て
 弊商會は諸君に同車を推
 薦する事絶對也

東京本町一丁目三九
 大澤會商京城支店

電話四八〇番
 口營座京城九三九番

金牌受領



山豚票변대약

往香の絶頂

のぼりて
見れば
のぼり
立つ
千門萬戸
皆此香水の
愛用



用家

▲地方兵力調査 目下時局の緊要なるに、地方兵力の調査は、軍事上の要務である。...



花造り

交戦國を廻り來て

質素な生活 感ずべき露國民

露國の生活は、質素である。...

廣く土地で

土地は、廣く、豊かである。...



支那の仙人

支那の仙人は、長生不老の術を修め、...

馬賊に嚇さる

馬賊の横行は、地方の治安を脅かす。...

鼎の沸く如き山東革命

山東の革命は、鼎の沸く如き勢を呈する。...

怖しい犬の病

犬の病は、非常に怖しいものである。...

城壁の巡遊は

城壁の巡遊は、市民の健康を促進する。...

宮城の大火

宮城の大火は、重大な被害をもたらした。...

漁船五隻沈没

漁船五隻の沈没は、多くの漁民の生命を奪った。...

葉の液から取る有望な染料

葉の液から取る染料は、環境に優しい。...

立派な黒色

立派な黒色の染料は、高品質である。...

任には三三の位階を奉行するのみ

平南の山火事 去五月四日

Table with names and addresses, likely a list of donors or members.

Table with names and addresses, likely a list of donors or members.

Table with names and addresses, likely a list of donors or members.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

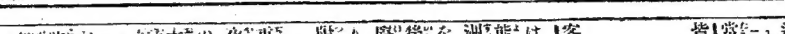
Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

Advertisement for a product, featuring an illustration of a person and text describing the benefits.

須藤南翠作
簡井年峰

四月八日、里の寺院は灌佛會の花
御堂を飾つて、天上天下唯我獨尊の
尊像を安置し、參詣の老幼、衆れも
甘茶を湛ぎ奉りて、如來降世の結縁
を報謝つて、一日を樂しく暮らして、
遊び勞つて枕に就く迄であつた。
上方勢の陣々には、支那の刻の拆
木響きわたつて、陣門の篝火、言合
せたやうに松を添へ、一段高く天を
焦す時、瑞龍寺の涌田が本陣には、
に適當な夜色である。斯くして
帳を北東に避け、岩嶺を南西に選
て、下道暗き森山の谷間を據、
槍から春木に下れば、一路圍隙を
くのは逆勝にない。天者は我が軍
降つた。是處に何の疑ひもあらず
益々この戰略に確信が生じて來た
旗は捲かねども、夜露に自然と露
垂れて、深く家々の紋所を照して
る。馬は鞍を銜ませぬ、鬣を垂



小つた。城は丹波郡葛崎の城は、尾
 岩三河の境にあつて、要害の地であ
 るから、織田羽柴父子に及ぶ。越前
 家康、丹羽鶴助氏次を招いて、東春
 井郡葛崎の地は、其方が累代の所領
 とであるから、速かに罷り向つて、岩
 崎の城堅固に取立て、能く之を守る
 やうに命じた。城頭大に悦び、勇んで
 谷原次郎助氏重と共に、馳せ向つて
 小城を擧へた。時に家康馬を清洲に

電話三三八

細の釜めしは 同店獨特
音室清潔親切本意殊に
其方に附け置く程に、兄に代つて

正に「一」を申し付けて、自分は清
く、驍を發せ、狡黠の戰ひにも果忠
を擧げて、たのであつた。小牧山移陣の
後、また岩崎へ還されたが、岩崎の
險固のを見て、即ち直ちに馳せ還
る、遂に攝原康政等先陣の案内者に
導かれたのであつた。

次郎、肥後氏、兄の命を奉じて、嚴
重に警備して居るうち、四月八日の
夜半に至つて、上方の大軍三州敵人
の爲め、此處を進軍すると聞いて、
大に心を痛めたが、また心を定めて、
宗定の侍士を召し集へ、

一池田藤八郎、二齋武野、二萬騎餘
を張して、三州に侵入するため、
此處を通行するに承はる。各々は如
所に相着へる」と評定した。

此の夜、肥後氏、兄の命を奉じて、嚴

來れ同如の士、萬事をひに關護せん
無所屬集士。▲一青年に與つて君の
現在の立場には大いに同情に絶へず
然れども其物を觀察するには、兩方面
よりなして其善き方面のみを見ざる
可らず。君は常に一方より觀察されて
煙閣して居られる様に思ふ。受ける卑陋
なる變遷は、青史名名の階級とかやと
申し今一息の心樹して現在の境遇を
を維持しつつ、儼然讀書の趣味を演義
して其の上層一層愛き事、猶ほ此考
の上に讀めかし猶ある身の方こそ試さ
んの心掛けを持して奮勵努力以て此
の劇然なる社會に活動せられるとき
には、天も何日しか君の頭上に同様に
興へること疑ふに餘地なし終に於て
若し何にか宗教を信じられん事を
望む。又青年▲一文學者の集結

鐵筋凝土工學圖象集	實驗和洋裁縫法圖象集	神之日常生活	醫學界珍聞錄	歌の作り方金子	黒田如水傳	歌曲手ほどき	人及び女社會	紅燈集	曉の樓	曉の世情	紅燈	手紙風	仇馬	日の本	電氣重要問題解答	青島興村の指導	哲念茶話	繪入淨觀史	須磨の仇浪妻
五	三	五	四	四	八	六	六	五	五	五	七	四	五	八	一	二	四	四	四

見本埠
路一二九六巷

[illegible]

なり、随分、八ヶ間しかりし浴槽、藍下げ
問題も、近來奢として、銭をなし、諸君之を
代れたるか、夫れども、又他に理由あり
て、其餘金を収めたるか、浴槽は不根柢
一浴四銭を下りたる振、諸君（嬢嬢）
忘）一輩、年々に告、僕も同じく、
年、た君の心、情、獨、情、申す、兎角、青年期
は、悲、觀、もすれば、發、觀、するもの、だ、
言、君に申し添へたい事がある、君
英雄、あるは、ス、キ、カ、ナ、君、に、
拜、心、に、あ、る、は、大、い、に、古、今、東、西、學
英雄の傳記を讀み、其の行を眞似す

贊化病院

東京市本町二丁目
電話二四二番

內科
小兒科
入院隨意
每日五名を限り

無料施療
ヤ

京橋本町 電話二〇八六 銀座最寄二五七三

大阪屋號書店

第一 醫藥と藥學は年々進
自然に善い物が出来
後から出来た物は先
ては今日の世の中で
第二 効 こう 益 えき
一切の眼病に用いて他の目
には効なし

能⁵ 論争は出来ぬ
に出来た物よりは善い物で無く
る道理であります
歩して行く散後から出来た物は

[illegible]

出港	出	出	出	帆	出	出	出	出	出
廣州丸	公州丸	公州丸	慶州丸	順天丸	各經丸	海州丸	三浦丸	長生丸	盛陽丸
五月十三日	五月十三日	五月十三日	五月十四日	五月十五日	五月十五日	五月十七日	五月十七日	五月十七日	五月十三日
仁川	仁川	仁川	木浦	木浦	木浦	釜山	釜山	釜山	釜山

22 22 22 22 22 22 22 22 22 22

何せこんな



(四) ロートはシユマテ痛ます

危険の恐なし

本目薬には薄紫の點眼

めぐすり
目薬が出來た

井上博士
ロート
目薬

に小兒にも容易に用ゐるを得

を添へたる故少し




<p>○又へ 安油 正 頭 智 九九九 五 五 月 月 廿 三 日 午 午 後 五 時</p>	<p>○外 所 下 船 上 船 時 間 等 詳 見 別 紙 等 特 許 貨 物 等 の 積 込 出 荷 は 別 紙 に 準 じ て 行 ふ 事 と す</p>	<p>○大 阪 商 船 出 帆</p>	<p>○大 連 大 沽 正 午 出 帆 三 日 正 午 出 帆 三 日 正 午 出 帆 三 日</p>	<p>○日 本 郵 船 出 帆</p>	<p>○船 櫃 馬 車 之 候 井 上 芳 太 郎</p>	<p>○株 式 京 城 葬 儀 社</p>	<p>○旭 町 二 丁 目 京 城 府 廳 傍</p>	<p>○電 話 一 五 六 七 番</p>
---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

部 部 | 店 | 帆田 | 編輯部

(一) 痛眼を不潔の手布等にて患
れは患者は安心して用ひ
張博士井上學太郎先生の
(二) 此圖の如き消滅したる痛
眼を不潔の手布等にて患
れは患者は安心して用ひ
(三) 點眼器は鋒の矢りたるは

處方に係り大前衆、
 武士の骨製な
 ることを得
 振ふは悪し故に口ト目樂には
 を添ゆ
 口に危險なり口ー


葬具一式
 造花 生花 花環 寄贈品
 裝飾品 其他供物 一切
 親切 御用 命奉希上候
 京城永樂町二丁目
 大葬社
 電話 五〇五六

[illegible]

出 出 船 出港 出

ハ品質の優秀良否を
故にロート目薬と使

ロート目薬と
外の目薬と

ロート目薬は眼病を以て

断する一審の世道であります。
 の目録とを比べ玉へ

藥町西本願寺に於て執行
五月十一日
弟 中野 清光
親 廣川 謙吉
成 吉松 吉次
總 秋山 雅之介
代 具山 然壽
人 友 彰

門司神戶、大阪行	日後五時出
○小倉、釜屋丸	日後六時出
元山、城津、浦田	日午後十時出
○小倉、新洲、城津、清波行	日午後六時出
○第三乘、九月	日午後六時出
門司、宇治、神戶、大阪行	日午後六時出
○第三乘、九月	日午後六時出
佳須奈、成原、壹岐	日午後六時出
○天英丸 每月廿四號	午後
日廿六日	晴出

釜屋丸、理立計
本船、姫拔店
大池、回濱

都 帆 十 帆 帆 帆 帆

比

較

中野有光長女
品子儀炳氣の處
養生不相叶本日未
明死亡致候問此段
辱知諸君に謹告候
追て葬儀は途中弔列を廢
し五月十三日午後一時永

溝蒙處分論 定價金二圓
京坂日報社編輯 松坂野矢金屋町三丁目

[illegible]

帆 帆 帆 都 帆 帆 帆 帆

Table 1. Land Use and Land Cover in the Sacramento-San Joaquin River Delta, 1982-2002

英國大本營クロバトキン 勝車原若村高倉井降

已奇氣俗仁出凡